

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392000622		
法人名	株式会社大木家		
事業所名	まちのオアシスグループホーム牟呂 ユニット (B)		
所在地	愛知県豊橋市牟呂中村町5-4		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouCd=2392000622-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouCd=2392000622-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年1月21日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームは、自分らしさを大切に安心して暮らせる第2の家を目指し、出来る限りお一人お一人のご要望に応えることが出来るように関わらせていただいています。真心を込めた接遇をさせていただくと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただいております。また、管理者が看護師であるため、急変時などの判断も速やかに対応することが出来、入居者様・ご家族様・スタッフも安心して過ごすことが出来ると考えています。日々の会議・勉強会にも力を入れて、事故のないように職員一人ひとりが成長できるように努めております。入居者様の自立支援・残存機能を生かし、生きがいを持ってゆったりとご自分のペースで暮らしていけるように支援し、安心して人生の最期を迎えることが出来るように関わらせていただいております。コロナ禍で外出が出来ないため、毎日散歩に出かけたり、季節ごとの行事に力を入れて暮らしの中の楽しみに繋げています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開所2年を迎えた平屋建てのモダンな事業所は、幹線道路から一筋中に入った公園や寺、小学校、住宅地が立ち並び中に位置している。法人の理念と全職員で考えた今年のスローガン、「気くばり・目くばり・心くばり」を目標に掲げ、思いやりや笑顔あふれる暖かい環境の中で、一人ひとりの希望を尊重し、安全性に配慮した支援を心がけている。今年もコロナウイルス感染の影響を受け、計画をしていた様々な地域交流や催しが滞る中で、職員と入居者が気持ちを揃え事業所で楽しめることを考えたり取り入れたりしてメリハリのある生活をしている。地域の利便性を活かし、歩いたり車椅子を動かしながら馴染みになった小学校や寺、理髪店など地域の散策を楽しんでいる。特に、保育園で飼われている山羊や兎などは、散歩がてら立ち寄り寄る癒しの場となっている。感染状況を確認しながら、ドライブによる桜や紅葉見物、初詣など分散して出掛けている。今後、喫茶店や外食などの支援ができる日を待ち望んでいる。手作りの良さにこだわった食材を活かしたり、好きなメニューを選んだりして、入居者と一緒にと手間かけて調理し、料理に合う食器に盛り付け楽しく食事をしている。吹き抜けの天窓から陽が入る明るいリビングで入居者同士がおしゃべりを楽しんだり、ソファーに座りコーヒーを嗜んだり、テレビや新聞などを心行くまで見たりして穏やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念における共有を会議毎、研修時等に復唱することで、実施に繋げる努力をしている。	事業所理念を基に毎年職員からスローガンを募り、全職員で目標を決めている。今年は「気くばり・目くばり・心くばり」を職員の目指す目標として日々のケアに活かしている。事業所理念とスローガンを各職員の研修ファイルに添付し、会議や研修の際に復唱して共有を図り、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は一年を通して散歩に出かけ、地域の方と交流の機会を持っている。また、近所の床屋を利用することで、地域とのつながりがある。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。今年度もコロナ禍により引き続き、町内会の行事は中止が多く、地域の飲食店での食事や買い物、ボランティアの受け入れなども自粛している。現状では、近所の理髪店の利用の継続と自治会長から防災訓練の参加の依頼を受け少しずつ交流を始めている。また、日々の散歩や公園やお寺に出かけた折に、地域の方と挨拶を交わしながら交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常は運営推進会議などの場で直接交流をしながら行うが、コロナ禍の為、書面にて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍のため書面での開催としているが、オンライン面会時や電話連絡時等のご意見をいただき、サービスに活かしている。	コロナ禍により昨年に引き続き運営推進会議は2か月に1回、施設の運営状況やヒヤリハット、事故報告、行事や活動報告、その他施設の様子など詳しく報告し、書面での開催としている。議事録は入居者家族、自治会長、民生委員、市役所長寿介護課、包括支援センター職員に毎回手渡しや郵送している。メンバーからの意見の聴取と反映については今後の課題となっている。	コロナ禍における書面開催は、入居者や職員参加により、2か月に1回開催し、議事内容に基づいて話し合われたことを会議録として残し、家族や外部の委員に配布や送付をして周知を図ることを望みたい。また、家族や委員からの事前の意見聴取の工夫や聴取した意見を活かして議事録に反映させ、事業所のサービスの向上に繋げて行くことを願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点や問題点などについて都度相談を実施し、できる限り市との連携関係を築けるように努力している。	行政担当窓口には、運営推進会議の議事録を持参したり、介護保険更新手続きや申請の代行業務、サービスの取り組みなどを伝え、不明な点や問題があればその都度相談するようにしている。地域包括とは、地域の困難事例の相談や入所状況などの情報を交換をしながら協力関係を築いている。今年度はコロナ禍ではあるが市主催の作品展に入居者の作品を出展し好評を得ている。また、市役所から送られてくるアンケート調査に随時協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施し、職員全体における身体拘束をしないケアの取り組みを意識している。身体拘束会議を開催し、身体拘束について拘束をしない考えを強く持ち、ケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3か月に1回実施し、拘束となる具体的な行為について正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。会議では、身体拘束をしないケアについて具体的に話し合ったり、ふとした気の緩みや癖から発する言葉遣いなどについて話し合い共通理解を図っている。日々のケアの中で気づいたことはお互い声を掛け合い注意を促している。年2回の社内研修の他に身体拘束について学ぶ機会を提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に内容を把握し、虐待等の防止に心掛けています。特に入浴時での痣や状態の変化に意識を置き、介助を実施している。状況により共用部のカメラで介護状況を確認するのと、カメラがある認識において事象発生するリスクをなくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解と活用を考え、利用者により成年後見・保証協会等の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明時間を設け、不安などに対して理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時、オンライン面会時に機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置して環境を整えている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録し、会議で検討して情報を共有し運営に反映させている。家族からはコロナ禍の影響もあり、現状では電話やオンライン面会時、衣類の補充などの折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。意見箱の設置をして、意見を述べやすい環境を整えている。毎月のお便りの他に、入居者の誕生日には日ごろの様子を写真にまとめ、コメントを添えて家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、会議、日頃からのコミュニケーションから提案や・要望を聞いて、その都度問題解決及び可能な内容については運営に反映をしている。また、玄関・事務室内に意見箱を設置している。	日常の業務の中や職員専用意見箱の利用、フロアリーダーの定期的な面談などで提案や要望を聞き、管理者と協議して運営に反映させている。全職員に人事評価を導入し、自らの力量を正しく理解して、向上心を持って質の高いケアに繋げるよう努めている。管理者は職員と年1回、パート職員は年2回の面談や随時話し合う機会を持ち、業務や職場環境などに反映させている。適性検査CUBICを導入し職員配置も含め改善に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談、会議、日頃からのコミュニケーションから提案や・要望を聞いて、その都度問題解決及び可能な内容については運営に反映をしている。また、玄関・事務室内に意見箱を設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修や実践者研修の参加を可能な範囲で受講してもらったり、施設内でも研修や、ヒヤリハットから学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会の会員に入室していただき交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望・不安なこと等を本人から聞いたり、言動から探っている。家族からの情報を基に早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、要望などを聞いた上でサービス内容の説明を行い理解していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内やたサービスの利用も考えた中でご入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見極め、生活の中で生かし頼りにされる関係を築くことに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモートでの面会をお願いし、またご家族で行える買い物等は出来る限りお願いしている。また、認知症状が重く、面会時の反応がない方などは、お手紙で生活状況を写真付きでお伝えしている。新聞の内容も施設での状況が伝わるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とはリモートで会話できるようにし、また職員との会話の中に話題として取り入れるようにしている。コロナ禍でなければ、馴染みの喫茶店などへの外出も考えている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、入居者が大切にしてきた物事が続けられるような支援に努めている。コロナ禍により友人や家族とは施設内でリモート面会をしている。施設内の壁面には昭和の懐かしい俳優のポスターや風景画を掲示して回想法での話題提供をしたり、浴衣を着て昔を懐かしんだり、日常の家事仕事や趣味の編み物などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。買い物やなじみの喫茶店などの外出は状況に応じて行う予定にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮した席の配置にすることで心地よい環境を作り、関わりが持てるように努めている。またトラブルになりそうな時は、職員が間に入り関係の修復を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時において、出来る限りのフォローをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からもくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、ご家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。	日常の入居者同士のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートや個人記録に記載して、会議で話し合い共有してケアにつなげている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたたりして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からもくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、ご家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況を確認し、状態に変化があった際は、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス提供記録を基に毎月モニタリングを行っている。問題点・課題などについて会議で話し合い情報を共有している。	入居者の意向や日常の様子を詳細に記録したサービス提供記録や職員の意見を基に、毎月モニタリングを行い、その都度評価をしている。入居者の意向や問題点、課題について会議で話し合い情報を共有している。必要に応じ、医師や看護師など関係者の意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。介護計画は3か月に1回見直しを行い、状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を詳細に記載し、職員間で情報の共有が出来るようにしケアの実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせた支援やその他のサービス利用が行えるように状況の把握と共有をし、その時々にあったサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなければ、地域イベントの参加や、買い物などに出かけることが出来るように考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医や専門医の受診を受けている。ご家族と相談しながら、介助が必要な方もこちらで送迎のサポートをしている。	入居時にかかりつけ医か、提携医かの希望を聞いているが提携医に変更される方が多い。内科は月2回の往診と緊急往診に対応している。歯科は月1回の往診と随時の治療も行っている。専門科は、家族の協力によりかかりつけ医に継続して受診している。施設内の看護師が必要に応じて医師と連携を取り健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、24時間対応で提携医や主治医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日勤帯に居るため、必要に応じた適切な処置が出来ており、また訪問看護師への相談なども適宜行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療側へ迅速に情報提供を行っている。退院前に入院中の情報収集を行い、退院後のサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重度化指針や終末期のあり方について考えや思いを確認した上で施設としてできる事を説明し方針を共有している。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度、希望を再確認し看取りの希望にも応える方向にある。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員は看取りや緊急時対応の研修とメンタルケアも実施している。入居者の日々のケアの大切さも説明し事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故対応のマニュアルを作成し、定期的に職員に向けての勉強会を行い周知することで急変や事故発生時備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を計画し、実施している。夜間想定でも実施。コロナ禍でなければ、自治会長より包括と共同で自治会の避難訓練に指導参加の依頼も受けている。	年2回地震や火災、津波など様々な災害を想定し昼間、夜間帯の職員体制で避難訓練や通報訓練、AED訓練を実施している。ユニットごとに避難誘導と避難経路の確認をして、訓練終了後に問題点や課題を話し合い改善している。緊急時に備え、カセットコンロ、マスク、水や食糧など1週間分以上の備蓄品を用意しリストにより管理している。コロナ禍のため地域の防災訓練の参加はできていないが、自治会長よりコロナが収束した折には、包括と合同で自治会の避難訓練の指導参加の依頼を受けている。	コロナ禍により地域との協力関係の構築には課題が多いが、地域の防災状況を把握した上で事業所の役割として何が出来るかを職員で話し合い、協力関係に進展させることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応をしている。また、接遇などの研修で適切な対応が出来るように指導している。	入居者のこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮した座席の配置や、それぞれの立場やプライバシーを損ねない呼び名で対応をしている。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや雑になりがちな言葉使いなど機会あることに注意し合っている。また、接遇などの研修を重ねて、知識や技術の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動の中から本人の思いや希望をくみ取りながら、ご本人の意向に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや意向、体調に合わせて、活動と休息のバランスが取れるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやおしゃれが出来るように声掛けや、更衣介助を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、野菜切り、混ぜたり、味付けしたり、調理を一緒に行い自立支援に繋げている。また、イベント食やおやつレク等で食べる楽しみの場を作っている。	業者の栄養士による栄養のバランスが取れたメニューで、毎食手作りをしている。また、季節に応じたメニューや一人鍋、クリスマスやおせちなどの行事食、パン食など希望を聞いて選び、それに合わせた食材が届けられる。手作りの良さにこだわった食材を活かしながら、入居者と一緒にひと手間かけて調理している。準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にしている。毎月のおやつレク やイベント食の焼肉や寿司の日などは楽しみの一つとなっている。家族や近所の方からの野菜や果物などの差し入れは食卓の一品として彩られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量等を意識している。また、一日の水分摂取量にも注意し、摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施。声掛け、見守り、準備、仕上げ磨き等、個々に合わせて介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて声掛け、誘導している。パットからポイズ、リハビリパンツから布パンツへと個々の能力に合わせて対応している。	個々の介護記録から排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は布パンツで過ごされる方や個々の状態に合わせたパッドの利用により自力での排泄を目指した支援をしている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援と誘導を行っている。夜間のみ必要に応じてポータブルを利用し、安心して排泄できる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を促し、便秘予防に努めながら、下剤の調整を主治医と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、女性職員対応をしたり、入浴のタイミングや時間帯を考慮している。週3回入浴出来るように、拒否の方を別日に入れたり配慮している。	入浴は週3回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。お湯は毎回入れ替え常に清潔に保たれている。ゆず湯、菖蒲湯や入浴剤で季節や香りを楽しむ工夫をしている。左右可動式の浴槽とリフトを設置して体調に合わせた入浴支援や同性介助の配慮もしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫してタイミングを見計らい、気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、昼夜逆転に注意しながら無理に日中起こしておかないようにしている。食後の昼寝も勧めて休息が取れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、各自が内服状況を把握している。また、主治医や看護師の指示のもと変更にも対応し、体調の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、興味あること、出来ることを生活歴や会話の中から探り、出来る限り楽しく生きがいを持って過ごすことが出来るように支援している。気分転換が出来るように散歩も積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、実施出来ないが、日々の散歩やゴミ出や草取りのお手伝いなどで外に出る機会を作っている。	新型コロナの影響も引き続きあるが、日当たりの良い玄関テラスで外気浴をしたり、デッキでシャボン玉などをして外気に触れる機会を大切に支援している。また、四季を感じられるような日々の散歩に心掛けたり、ごみ出し、草取りなど日常の暮らしを充実させた支援にも努めている。感染対策をして状況を見ながらドライブによる桜や紅葉見物、初詣など分散して出掛けている。今後、喫茶店や外食などの支援ができる日を待ち望んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。必要時、立替で引き落としされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を居室に持ち込み、自由にお話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を一緒に作りフロアに飾ったり席が分かりやすいように名前を貼ったり、座布団を置いたりしている。また、こまめに換気し感染予防を積極的にしている。	天井が吹き抜けで高く、天窓からの採光で明るい食堂と居間は、清掃が行き届き清潔感と解放感がある。各ユニットの個性を生かした手作り作品や季節に合った作品を、お洒落に飾り居心地の良い大人の生活環境を提供している。壁面には昭和を代表する俳優や映画のポスターを貼って回想法を通して会話が促せるように配慮している。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理をしながら入居者を見守ることができる配置となっている。食後は、ソファでテレビを見たり、入居者同士おしゃべりをしたりして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席でなく、個別に一人になりたい時はソファで過ごせるように共用空間の居場所作りを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様ที่ใช้慣れた物や好みの物を配置して、手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いた空間になるように配慮をしている。	居室にはクローゼットや洗面台が備え付けられ、自分で洗面や着替え、お化粧などの身だしなみが整えられるよう配慮されている。ベッドは入居者の状態に応じたタイプを提供している。使い慣れた筆筒や好みの椅子、テレビなど自宅で使用していた物を持ち込み安心できる環境作りをしている。また、手作り作品や家族の写真などを飾って自分らしく落ち着いた生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい掃除道具を準備したり、室内で安全に洗濯物干しが出来るように置き型の室内干しを設置することで出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000622		
法人名	株式会社大木家		
事業所名	まちのオアシスグループホーム牟呂 ユニット (A)		
所在地	愛知県豊橋市牟呂中村町5-4		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392000622-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392000622-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和4年1月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、自分らしさを大切に安心して暮らせる第2の家を目指し、出来る限りお一人お一人のご要望に応えることが出来るように関わらせていただいています。真心を込めた接遇をさせていただくと共に、専門スタッフによるきめ細やかな介護体制でお世話させていただいております。また、管理者が看護師であるため、急変時などの判断も速やかに対応することが出来、入居者様・ご家族様・スタッフも安心して過ごすことが出来ると考えています。日々の会議・勉強会にも力を入れて、事故のないように職員一人ひとりが成長できるように努めております。入居者様の自立支援・残存機能を生かし、生きがいを持ってゆったりとご自分のペースで暮らしていけるように支援し、安心して人生の最期を迎えることが出来るように関わらせていただいております。コロナ禍で外出が出来ないため、毎日散歩に出かけたり、季節ごとの行事に力を入れて暮らしの中の楽しみに繋げています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所2年を迎えた平屋建てのモダンな事業所は、幹線道路から一筋中に入った公園や寺、小学校、住宅地が立ち並び中に位置している。法人の理念と全職員で考えた今年のスローガン、「気づけり・目くぼり・心くぼり」を目標に掲げ、思いやりや笑顔あふれる暖かい環境の中で、一人ひとりの希望を尊重し、安全性に配慮した支援を心がけている。今年もコロナウイルス感染の影響を受け、計画をしていた様々な地域交流や催しが滞る中で、職員と入居者が気持ちを揃え事業所で楽しめることを考えたり取り入れたりしてメリハリのある生活をしている。地域の利便性を活かし、歩いたり車椅子を動かしながら馴染みになった小学校や寺、理髪店など地域の散策を楽しんでいる。特に、保育園で飼われている山羊や兎などは、散歩がてら立ち寄り寄る癒しの場となっている。感染状況を確認しながら、ドライブによる桜や紅葉見物、初詣など分散して出掛けている。今後、喫茶店や外食などの支援ができる日を待ち望んでいる。手作りの良さにこだわった食材を活かしたり、好きなメニューを選んだりして、入居者と一緒にと手間かけて調理し、料理に合う食器に盛り付け楽しく食事をしている。吹き抜けの天窓から陽が入る明るいリビングで入居者同士がおしゃべりを楽しんだり、ソファに座りコーヒーを嗜んだり、テレビや新聞などを心行くまで見たりして穏やかに過ごしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念における共有を会議毎、研修時等に復唱することで、実施に繋げる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は一年を通して散歩に出かけ、地域の方と交流の機会を持っている。また、近所の床屋を利用することで、地域とのつながりがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常は運営推進会議などの場で直接交流をしながら行うが、コロナ禍の為、書面にて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍のため書面での開催としているが、オンライン面会時や電話連絡時等でのご意見をいただき、サービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点や問題点などについて都度相談を実施し、できる限り市との連携関係を築けるように努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修を実施し、職員全体における身体拘束をしないケアの取り組みを意識している。身体拘束会議を開催し、身体拘束について拘束をしない考えを強く持ち、ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に内容を把握し、虐待等の防止に心掛けている。特に入浴時での痣や状態の変化に意識を置き、介助を実施している。状況により共用部のカメラで介護状況を確認し、防止と監視をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解と活用を考え、利用者により成年後見・保証協会等の相談にも応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明時間を設け、不安などに対して理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時、オンライン面会時に機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置して環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談、会議、日頃からのコミュニケーションから提案や・要望を聞いて、その都度問題解決及び可能な内容については運営に反映している。また、玄関・事務室内に意見箱を設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談、会議、日頃からのコミュニケーションから提案や・要望を聞いて、その都度問題解決及び可能な内容については運営に反映している。また、玄関・事務室内に意見箱を設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修や実践者研修の参加を可能な範囲で受講してもらったり、施設内でも研修や、ヒヤリハットから学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の部会の会員に入らせていただき交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望・不安なこと等を本人から聞いたり、言動から探っている。家族からの情報を基に早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていること、要望などを聞いた上でサービス内容の説明を行い理解していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の要望を確認し、場合により他事業所の案内やサービスの利用も考えた中でご入居の検討を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見極め、生活の中で生かし頼りにされる関係を築くことに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモートでの面会をお願いし、またご家族で行える買い物等は出来る限りお願いしている。また、認知症状が重く、面会時の反応がない方などは、お手紙で生活状況を写真付きでお伝えしている。新聞の内容も施設での状況が伝わるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とはリモートで会話できるようにし、また職員との会話の中に話題として取り入れるようにしている。コロナ禍でなければ、馴染みの喫茶店などへの外出も考えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮した席の配置にすることで心地よい環境を作り、関わりが持てるように努めている。またトラブルになりそうな時は、職員が間に入り関係の修復を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時において、出来る限りのフォローをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からもくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、ご家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人の思いや暮らしの希望を確認し、何気ない言動からもくみ取るように努めている。表出の少ない人は、表情から把握したり、ご家族からの話を聞いて意向に沿ったサービス提供を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況を確認し、状態に変化があった際は、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス提供記録を基に毎月モニタリングを行っている。問題点・課題などについて会議で話し合い情報を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を詳細に記載し、職員間で情報の共有が出来るようにしケアのケアの実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせた支援やその他のサービス利用が行えるように状況の把握と共有をし、その時々にあったサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなければ、地域イベントの参加や、買い物などに出かけることができるように考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医や専門医の受診を受けている。ご家族と相談しながら、介助が必要な方もこちらで送迎のサポートをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日勤帯にいるため、必要に応じた適切な処置が出来ており、また訪問看護師への相談なども適宜行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療側へ迅速に情報提供を行っている。退院前に入院中の情報収集を行い、退院後のサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に重度化指針や終末期のあり方について考えや思いを確認した上で施設としてできる事を説明し方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故対応のマニュアルを作成し、定期的に職員に向けての勉強会を行い周知することで急変や自己発生時備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を計画し、実施している。夜間想定でも実施。コロナ禍でなければ、自治会長より包括と共同で自治会の避難訓練に指導参加の依頼も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応をしている。また、接遇などの研修で適切な対応が出来るように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動の中から本人の思いや希望をくみ取りながら、ご本人の意向に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや意向、体調に合わせて、活動と休息のバランスが取れるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔を保ち、身だしなみやおしゃれが出来るように声掛けや、更衣介助を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、野菜切り、混ぜたり、味付けしたり、調理を一緒に行い自立支援に繋げている。また、イベント食やおやつレク等で食べる楽しみの場を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにおいて食事形態や量等を意識している。また、一日の水分摂取量にも注意し、摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時において口腔ケアを実施。声掛け、見守り、準備、仕上げ磨き等、個々に合わせて介入している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて声掛け、誘導している。パットからポイズ、リハビリパンツから布パンツへと個々の能力に合わせて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を促し、便秘予防に努めながら、下剤の調整を主治医と相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ、女性職員対応をしたり、入るタイミングや時間帯を考慮している。週3回入浴出来るように、拒否の方を別日に入れたり配慮をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせ、昼夜逆転に注意しながら無理に日中起こしておかないようにしている。食後の昼寝も勧めて休息が取れるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し、各自が内服状況を把握している。また、主治医や看護師の指示のもと変更にも対応し、体調の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり、興味あること、出来ることを生活歴や会話の中から探り、出来る限り楽しく生きがいを持って過ごすことが出来るように支援している。気分転換が出来るように散歩も積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、実施出来ていないが、日々の散歩やゴミ出や草取りのお手伝いなどで外に出る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。必要時、立替で引き落としされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を居室に持ち込み、自由にお話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を一緒に作りフロアに飾ったり席が分かりやすいように名前を貼ったり、座布団を置いたりしている。また、こまめに換気し感染予防を積極的に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席でなく、個別に一人になりたい時はソファで過ごせるように共用空間の居場所作りを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた物や好みの物を配置して、手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いた空間になるように配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使いやすい掃除道具を準備したり、室内で安全に洗濯物干しが出来るように置き型の室内干しを設置することで出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		